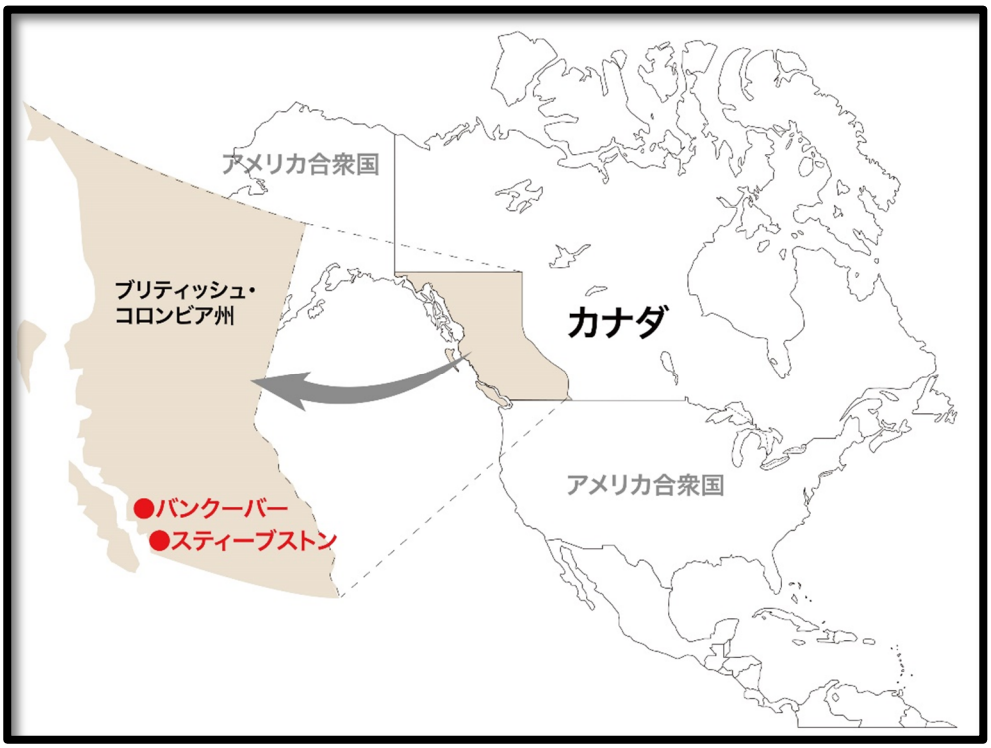
海外移住資料館『学習活動の手引き』 カナダに渡った日本人の「活躍」と「正義」 （資料3）

カナダと和歌山移民

カナダへの移住については、三尾村（現日高郡美浜町三尾）出身の工野儀兵衛がよく知られており、「カナダ移民の父」と呼ばれています。工野は1888（明治21）年カナダへ先がけとして渡り、フレーザー河のサケ漁の将来性に目をつけ、同村から大勢の人を呼び寄せました。そのサケ漁の中心地であるブリティッシュ・コロンビア（BC）州スティーブストンには、1900（明治 33）年 150 人の会員からなる加奈陀三尾村人会が設立され、1936（昭和 11）年には 763 人に達しました。

当時の BC 州漁業の6～7割は和歌山県人によって営まれ、その中心を担っていたのが三尾村出身者でした。「連れもて行こら」（いっしょに行こう）の合言葉が流行したのも同村でした。こうした人たちからの送金や帰国した人たちにより、三尾村には西洋風の家屋が建てられ、洋風の生活を営んだ人が多かったことから、「アメリカ村」と呼ばれるようになりました。アメリカとはアメリカ大陸のことを指し、実際にアメリカ・カナダ間を往来することも多かったようです。美浜町には 1978（昭和 53）年、アメリカ村カナダ移民資料館が設立されています（現在、閉館中）。リッチモンド市スティーブストンにも 1988（昭和 63）年、工野庭園という日本式庭園が造られました。また 2018（平成30）年には、アメリカ村バス停の近くに洋風家屋を改修し「カナダミュージアム」が開館しました。



地図「ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーとスティーブストン」

●カナダの三尾村人会

三尾村を中心とした和歌山移民は、スティーブストンで村人会や青年会を作りました。そして、相撲や野球などの文化活動もさかんに行われていました。

●サケ漁への貢献とスティーブストン港

港町スティーブストンには、現在でも和歌山をはじめとした日本人移民の歴史を紹介する場所が少なくありません。スティーブストン港のすぐ近くには、和歌山県人渡加百周年記念碑が立つ工野庭園や、船大工として活躍した日本人の造船所跡を示す解説パネルなどが設置されています。また、現在では博物館となっているかつての缶詰工場では、サケ漁に関わった日本人移民の歴史に関する展示も見ることができます。

スティーブストン港（撮影：中澤純一）

当時は日系人もたくさんいた缶詰工場（撮影：中澤純一）

●バンクーバーの日本町とパウエル街

スティーブストンから 20 キロほど離れた都市バンクーバーには、戦前パウエル街を中心に日本人町がありました。その中心となっていたのが、オッペンハイマー公園（パウエルグランド）で、日本人の野球チーム「朝日軍」が拠点として活動していました。スティーブストン在住の日本人の中にも、このパウエルグランドでの野球観戦を楽しみにしていた人が大勢いました。

バンクーバー・朝日軍（提供：テッド・Y・フルモト）

この公園では、現在でも毎年8月、カナダ各地から日系人が集い、パウエル祭という日系人のイベントを行っています。

参考資料

JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示（2015）「連れもて行こら 紀州から！―世界にひろがる和歌山移民―」